

911.3
サ
F91

羽黑

月山

湯殿

三山雅集

下

緣起事跡
詩歌連俳

三山雅集題辭

著鷹れつで羽乃國飽海郡の三岳を華藏世界
 乃紫雲城サキビ安養淨刹れ徳池と模ウツ補
 陀山頭の薰風とくくカハシキ靈妙祥瑞れ勝シキカイ際也
 と花山を高く峻カハシキと佳カとと仙ありて
 とそと水は深く港ナギをれと美やせと
 龍ありとととカハシキ譽と三岳を神仙ハハ
 ぼれを峯なり能除仙乃陽臺あり驪龍を
 いづまぐカハシキ八太竜を桂社にりてあ
 たりと玄奥密藏の寶地ありて世俗の語話
 あり顯はる先哲乃著述と池ウツをり時

山下より一人の驗者何處靈岳乃草創の古
こころ梵宮此事物の衆オホシりふと他邦遠境より
流布せりしんや多年此願望怠らざらん
山上小俊秀乃書生ありて是と歎息し螢
雪の窓前に對して寂河此決アツクくを多し
筆とてうめく湯山の峨トナリく軸をみて
山の皇圖に遠く隔りやもつとも苦燈乃
白州龍岡此ふれあし一峯小句ひ谷成せりて
春秋此幽賞をのびてしり中比胤海僧正
とこそとんく之台嶺の法燈りり山當山の
主主巖と補補風光み吟吟りて景景の
うのくち桑門桃青行脚の折折り杖と稜川
り酒酒に鞋ツツを南谷小そめりく月み嘯ウツムき雨
に眠りて乱同此奇句を練ふ志く志まふ
ののき海青二傑乃遺風草成ナヒ靡ナヒく松との
りて雅韻今より絶絶らまきり其絶絶ぶふ吟懷
りり古人當時此佳作所ににみ書交交て下帙ゴ既
りりりまぬ嗚呼ア文ニ葩カををふふのの也

江陵後學北藤浮生 謹誌



玉振院

普賢院

桐原本社

皇野

金

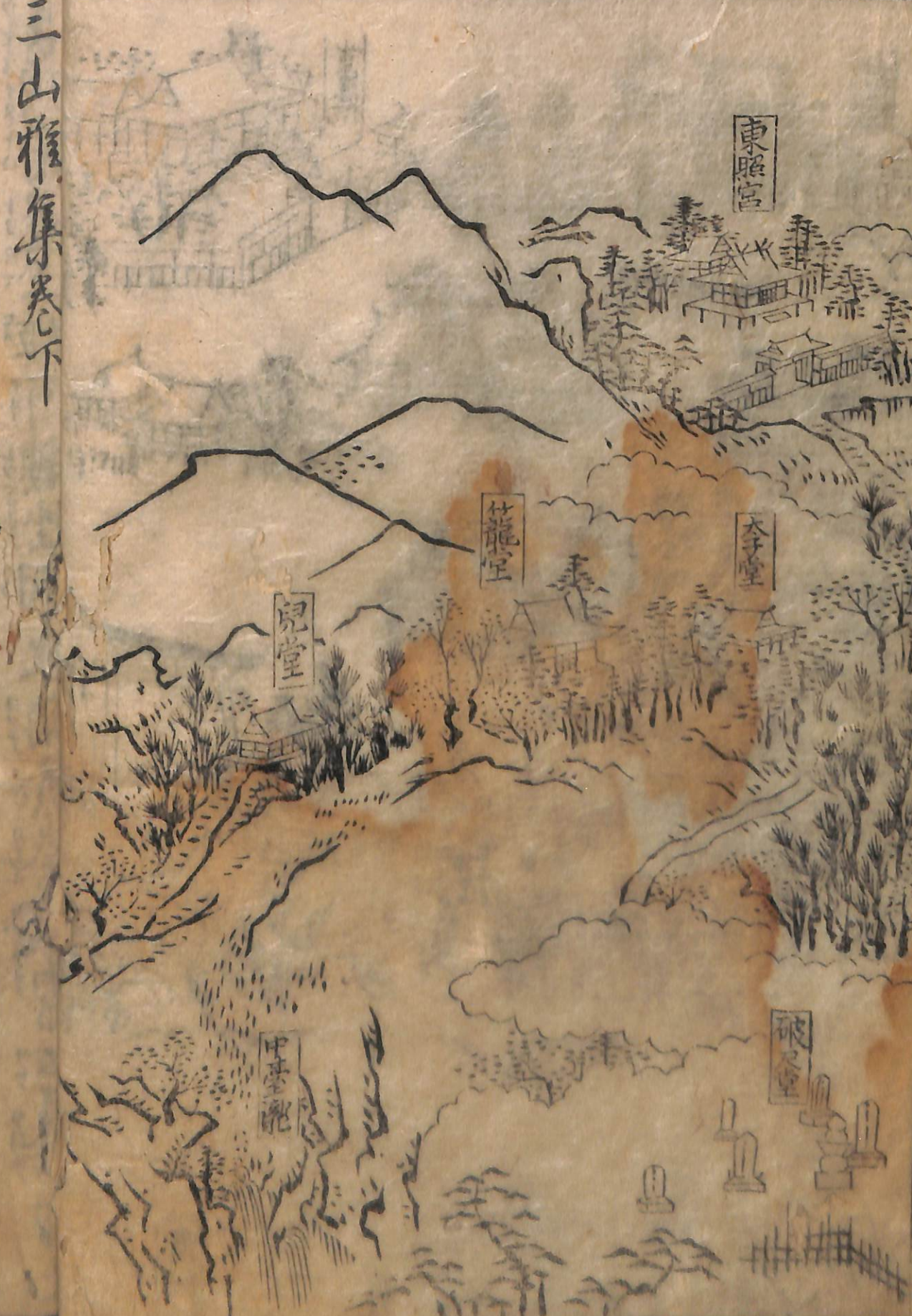
阿谷

三山雅集卷下

羽黒本社

當社之所乃^{サウ}草創^{ソウクワ}之推古天皇勅宣羽黒山寂光寺
 八大寺建立^{アリオキ}置^シ七千^ニ衆徒寄附由利庄内仙北等數
 郡^ヲそれより代々此帝王武將金玉成^{ヒタリ}樹石^{トシ}成^ル
 ひく造受^{サウ}成^ルく小及^コ廟^{ウラ}り如^{イハ}今^{イマ}乃^ハ宮殿^{ミヤノ}之^ノ度長十二
 年^{トシ}從四位下行道衛少將兼出羽守源朝臣寂上^シ我見
 志願^シ此仔細^{コト}之^ノ門^{カド}之^ノ再^ス嘗^シ之^ノ寛文^{クワンブン}年中

嚴有院殿御朱印社願千五百石余當山先貫王
 天宥^{アメノ}法^{ホウ}平頂戴^{ヘイテイ}之^ノ是^{コト}時^{トキ}より山^{ヤマ}麓^ノの繁榮^{ハルカ}不^レ同^ナ
 新^{アラタ}小^コより王侯士民の祈^{イノ}願^{ガヒ}よりとて^ハ最^{トモ}前^{マヘ}より本社



西南亦向之王塚其鬼門成守護一末病之屋有聯

了之國家の疫氣成追伏也之故一往詣の老翁の回
時とわし之神威其高驗了之果一と感得と

舊記云人王十二代景行天皇即位元年辛未六月陸

輿國大泉江血原止年向丘羽里陵鎮坐同二十年庚寅

武内宿禰依勅崇北陸神祠時至由良建敏庶而天樂響

海陸宿禰敬異而欲至虛中一時鹽土老翁忽從出

現問回何故來此耶宿禰答曰依勅宣崇北陸神祠

奇哉天樂響音如何宿答曰聖嶺者鷓鴣草昔不

命尊鎮護之後家中也震辰藤原者玉依姬基瑞之聖地也

辰原者豐玉姬祈禱聖祠一歸_ニ瑞嶺_ニ坐_シ而命尊行_テ一乘_リ報_テ耶

月中五日崇神祠美是乎宜納賀原之神也試詠

小舟_ト見_ル彦_ホ出_ル見_ル尊_ニ妻_ト豐_玉姬_ト結_ル親_ク賑_メ情_ヲ

速臨產時豐玉姬甚慙之乃以叫_ル哀_ク與_テ棄_リ之海_ニ過_リ閉_ル

海途往去矣故因此以糸兒_ト同_ク乃_リ波_ヲ激_テ武_ノ鷓_ノ鴣_ノ州_ノ嘗_テ不_レ

合尊_ト此_レ致_ル成_ル者_ト上_ノ子_ト記_ス八_ノ心_ト女_ト浦_ノ海_ノ

卷表托理_ト等_ト同_ク之_ト上_ノ子_ト記_ス八_ノ心_ト女_ト浦_ノ海_ノ

又彦_ホ出_ル見_ル尊_ニ婚_ル兄_ト大_ニ爾_ト降_ル命_ト山_ノ幸_ト海_ノ幸_ト成_ル

孫_ト中_ノ見_ル出_ル見_ル尊_ニ甚_ク深_ク則_チ入_リ海_ニ中_ニ失_レ身_ト

こころの釣_ト得_ル且_ニ得_ル爾_ト備_テ獲_ル以_テ爾_ト備_テ獲_ル

心_ノ底_ニ遍_ル惱_ル一_ト終_ニ事_ト見_ル日_本紀_等上_ノ

和滿珠寺の名ありて事粗度我不可歎

又説云玉依姫と云り是別鶴鷄州菅不合乎此

小一と神武帝乃母神なりこの説る男女此邊の

み多説あり同くを歎

又説云伯耆川姫命と云りこれ玉依姫此子やこの

後と古に小縁を等すりて人々

本朝年代記曰推古天皇元年癸丑出現出羽國羽

尾權現稻倉魂神也一記云倉稻魂命也これ

日本紀に依るとに伊弉諾冊二神の子なり

或記云人王二十二代崇峻天皇五年壬子出現

事いづれに能除師なり此は

真陰向くくれば推古年中と云りや倉稻魂

稻倉魂大同小異なり

武に根津社家木戸常陽考云豊御食炊姫朝代

癸丑年羽黒權現陸奥に現れ給ふ元明天皇和銅

五年壬子奥列にけり出羽成至今羽黒月山

湯殿と出羽國飽海郡あり羽黒權現を稻倉

魂神也毎年十二月晦日夜國人廣前に炬録

乃農具成東西飾り五穀豊饒成りて洛

東祇園社除夜近江丹波の由國成分削掛の神事

よお似たり宇賀魂命延喜式神名帳曰山姥國紀伊那稻荷

涼風やや此の月乃も分る山 芭蕉
鳴鶴やや折くや抱れゆく 路通
可成今渡るや 多新羽黒山 惟然
五十間結る成羽黒乃糸くね 桃隣
岩着此鹿おがけくまもくろ山 支考

遥拜

らむ此山花がぬくあらし玉や 調和
羽黒山弥勤とらぐとあまふらふ 沾徳
涼くさや鳴ねよ寝く羽白山 不角
交の菌や 飯氣此入梅の籠 常陽
城籠る羽黒山 負佐
蝙蝠乃羽黒山 琴風
笑鶴此羽黒山 等躬
山をらん雪月 雪もかく竹海 等躬
新山や清水よまてく 古璉
一鏡乃為よ袖 序令

又

すぐらぶの羽黒山 嵐雪
鶴れ羽乃白尾 秀和
花も山此四月 介我
白ゆさやほくく 立永

岩草此い〜と雲る清山うら 山夕
先述乃鶴鶴五〜乃清水かれ 青流
目成団く雪此日成〜や草の類 百里
清境〜藤末の白や〜いられ 銀葉
清山此雲入ぬ人をも 梅〜に 秋色

今

馬所人此道者とも〜山さう〜 無倫
為よ法岩草と〜〜〜 沾洲
突息此陰〜〜〜 周竹
粘此田らやよ大藜此穂あり〜 白鳳

此れ物乃〜の山〜
公一本潛竜此威〜 立幸
猶素ら同者乃神〜 徑前
梓下〜松〜 等國

拜瀧當山舊記

木此系猿凡〜神〜 浮生
旅人此若らや羽〜 鶴里
此と〜月〜 湖十
梵天〜ら〜 一鶴
此れ改や草の系〜 千本
此代〜ら〜 保枝

山伏此即着此... 歌人阿れ新有... 昔此山山洞

歷代事實

舊記云人王三十二代用明天皇即位元年丙午為守
屋大臣調伏御祈願勸請云々

續日本紀九回貞觀十五年

五十六代
清和帝

贈御位正三位封二戶

一記曰人王六十七代之條院法隆寺得再建時羽黑檀

現崇當寺之鎮守神

又云人王七十一代後冷白氷院康平年中遷羽黑之傳幣
於下野國山田郡

安置御本尊寂光寺栗子山合戰自天永三年至永
久四年

又云鎮守府將軍兼陸奥守藤原朝臣秀衡大堂建
立之於今秀衡妹德尼子木像在本社中

人王八十五代後堀川院安貞二年戊子當山造學又八

十八代後深草院正喜二年戊子修覆九十三代後二條

院清宇造學九十四代花園院正和年與羽津輕十二

湊合安倍氏政季勅羽黑社此外諸國勸請之地

繁多也略之謂所之或崇新山權現也常陸國入四

間稱當山而有月山湯殿及荒澤等形容

遠攀羅葛拜靈蹤千載山高帝子功 江戶 琴吾

毒霧瘴嵐披鳥道，碧雲白日映仙宮。

晴川漲雪不留汗，奇菓經霜又賦窮。

石老松寒華表古，偶看孤鶴入秋空。

戒言鹿沼誘ひ出さるんほくくさく

姫々くむ羽鳥頭れむさりすり

中流く氷れ傳りり荷葉くす水

後丸れ小きく呼ぶはハリや海

何事のおもくは夏天れ午時乃夢

ゆふくやたすくお傳り言記幸夷

花し咲山くさくく種如青

柳苗帆れ能飯ひく道老く那

知子れき布自然とほれく神の六

三光乃旋つる小くも物考れ草

酒田くく菊乃く上荷や乳はんや

恵北山すい清羽鳥れおのくく口

為さくく奇別の成有くく羽鳥く山

甚深くく崔れ切くくはるや海

雪おふくく客宿連乃清海りそ

昔今名れ何く松く草もろが

梵天れ蓮の美花ひく羽鳥く山

及伴 一非 左英 梅倫 倫牽 倫鶺 聞習 窺原 志説 上山 利言 幽窓 風和 如嘯 柳舟 伽夕 嵐夕

空を渡る鳥の奥を 探らん蜂のこころ 酒田 桂齋

同好小時宜しく春一清あり 越前 井水

素徳此詩と觸りりほく 全高上 水柳

河字乃意味用とやむの相見山 常呂小川 遠長

忌れお行し流をと峯一乃家 全 琉水

懺悔少くん此花とかがらうびぬ 全 泉井

山禱と此湯の意乃みやげ 全潮来 山遊

九折を向ふ平均と云はる 全 敲推

六角のりらと此雁うねを流乃を 全 安信

を言ふお月うづひと羽見山 全 重文

約新の流儀 全 知

卯れ花の相見流の雲あり 全 曲脰

羽乃まむ居るや雲流れ縁病 全 四月

乃あると云ふ子 全 頭角

彼者と云ふ花と 全 雲常

神頭此梅乃花柳 全 千六

縁け程 全 川水

梅も 全 可布

山室 全 笑可

山 全 言卷

酒田 桂齋

越前 井水

全高上 水柳

常呂小川 遠長

全 琉水

全 泉井

全潮来 山遊

全 敲推

全 安信

全 重文

全 知

全 曲脰

全 四月

全 頭角

全 雲常

全 千六

全 川水

全 可布

全 笑可

全 言卷

あはれなる言は成遠くと覺ゆべし
神田
みしころれわくえし観や福出風 此紅
又そがゆるり神示嘆く未敷蓮華 東水
鶴音あつとくまを新ふつらゆま垣了枝
感念れとくしよをくしきりし柳也
寄生お花にら子安乃乳存ら 武仙
一千年草花枯ぬ葉つりや神乃風 梨水
梵天より福隊ちし十二郡 李山
冥加られ居るく山花に花袋 其翠
喚聲れ騰成滑くやらけ乃を 山風

験者初山の御あり

白布より尾花にけしとる 引子あり 呂筋

祭禮古式

毎歳六月十五日神あり於く別處代下山衆徒天下
國家の祈ねありく清神樂成巻と湯殿月山相聖
之所乃神樂成本社に祈しとる神事勅行早つとく
宝衣成昇出し御半洗にまじり末祠への首を巡り
一山衆徒より幟等并淫武と一人故等まろく出く
獅子頭本社れあわく一曲とあまげは獅子頭なる鳥
村とま里乃祿宣のあまありをれうしおまろくあそび
い里よりあそびとるし神告るれをれ告るは

くは本堂に 宗家此の御之二十講會と神
一之此の流乃申之御堂之御講堂奉圓本社
よまはたは飾之法華八講と御堂之御堂
所への論法之御堂一之此の御堂の御堂
よまはたは飾之法華八講と御堂之御堂
作若縁と注しり之御堂之御堂傳記同古來
高寺山勝福寺岳戒寺死鳥山井園寺金峯山觀
寺此等の山より御堂之御堂一之此の御堂
よまはたは飾之法華八講と御堂之御堂
右此の山より御堂之御堂一之此の御堂

本社に番新仕奉御堂之御堂一之此の御堂
更役其士役能多能記役并兼仕法師執事人等
高會舎之御堂名帳と改定二日之此の四五
の御堂名帳之御堂之御堂一之此の御堂
人此の御堂之御堂之御堂一之此の御堂
之御堂下之役と鬼徒之御堂之御堂一之此の御堂
法之御堂之御堂之御堂一之此の御堂
小堂御堂下之御堂之御堂一之此の御堂
人家御堂之御堂之御堂一之此の御堂
く本社此の御堂之御堂之御堂一之此の御堂
人此の御堂之御堂之御堂一之此の御堂

山ノ脊若くし山ノ峰此ノ宮帽ノ
花乃梅也ニ干塔ノ中ニ
南枝
山鵲下野ノ
梅義
白ゆふ夜あけりて
峯月

本社軌則

舊記曰人王四十二代文武天皇慶雲年中陸奥國
丘壠岡卷之間魔魅現出而逼衛國民干時於當社
廣前模鬼形為松炬二基而選二六驗者令修行唯難
元正天皇靈龜元年每崇六方令修行法是謂驗競
也之當時その遺流成用いし毎崇除夜山林原乃

象控りりし五勅豊饒惡魔降伏の約形あり
驗者十二人左右一列し其師乃十二大将成表し
名帳此後師二人ら同光月光の二菩薩に准り驗
者乃福正正し毎年二人宛この書れ行法乃
復しあはる是と松聖といふ白兔乃復しと童一人
兔の面を被り白布衣と名せ内陣より出ると
約し白兔は月乃精なりて月山権現成象り年中
出車八例に外し移りて故實なり庭より於て
淨常此に

と化すは是亦禰と大松の御と有るは亦たわら
て西の方縁の山に焼く新火を河内唱す文曰山鳥
海内都大日天下泰平國之安穩と

祭傳曰分羽足熊野彦山と山と品彙修驗と平左
左平前後也日本西二十之箇列東二十之箇列如辨
於平敷之登新司山伏者羽足推現一二三者熊野
権現四者彦山権現也と所司山伏文は成心と本社乃
庭と成り門二十六品と有りは門所也西亦四ヶ國
と熊野然ち此地と定火は九ヶ國と彦山然ち乃地
と東亦二ヶ國と羽足権現然守此地と定火は九ヶ國
地乃儀式なり庄内領の事勢を候と和く親傳と有り

米鏡乃實能成候と二人の験者は是を收納し
おれ行はと勤心是と修驗出世權大僧師と名付け
松取と有りは此方成候と有りは右と左と途と有り
羽足熊野彦山と三部は兼しと有りは羽足は是は佛
部本尊深院熊野は是は金剛部本尊不動彦山
の是は蓮華部本尊觀音本社西殿は熊野権現と
初然し是亦有りは熊野は金乃是羽足は胎の是有りて
金胎部と家つと殿有りは福有りは熊野は牛王羽足
牛王寶印を梅鳥鳥成熊野小月の中事と信守と
山故實は是に留れ有り是等は毒酒の縁起と有り
より撮要舉一二耳

舊記曰全百一代後小松院嘉慶三年八月和實於
當山念修行法華公講及同法一會于時為修也
於御平院此之宗年意而有音樂所謂不樂樂其
保樂獲者今春驚愕為壽樂活主納獲利名也
在大倉欲為末代朝則故雅妙典十經而命壽消福
因將是謂十經田也之今一十經田此之經田
小經田北經田之村羽子神領之也此外由利
仙北等神領之事同記之也仙北神田按百東
蓋田五百東幡屋五百東船門五百東今東三百東如此名神領
通河島地之故之當山司職乃家之住者故也
所謂別當職長吏職之山主一司一之諸職執行

之也別行少之本社乃健鑪瓜形山外禁足
院主職、司諸國院長之補任大先達職之諸國在
乃修驗成換新之學頭職、顯密傳乃之代
官司職、大字之号一之秘必祿宜職之名符之附與
之也女別當職、社主乃巫女之司之神託劫之
家業也如此等乃職分無多少一之之位元備
之也一之經金之記中一之臺下之異論行華
の一一八十二代主御門院承元之三己年大泉院即氏
平之無事之記一之東繼之風由
九十一代伏見院承仁五百多年當山山伏謂執權平
自時真訓之所一王代一領等之詳也

九十二代後二條院嘉元年中一高山家伝記、後金曆代
武将畧記に載せり

九十六代光嚴院建武二丙子年、圓司顯信上洛、大山

氏隨兵羽黒山伏雲景、以下率兵隨之、雲景此

子孫今も所まかり

九十七代光厳院貞和年中、出羽陸奥あむく勢、隨南

朝之、事在京年久し

東鑑よ、出羽黒山の家伝と載せり、出羽の羽黒山、成徳

て如此事、や又羽羽羽子と中路と、九往昔出羽

黒山、成徳と畧して羽黒山と、や上古有るの羽黒

首、一畧して、四此名と、古に史に、

三足の鳥、成徳と、一、成徳と、

往古より、乃一、成徳と、一、成徳と、

山の考、成徳と、成徳と、

當山、古往より、権次、の敷、

陸奥、出羽、越後、依波、信濃、乃五箇、

成徳と、成徳と、配分、牛王、卷、

殿、壇、の、成徳と、五、成徳と、

成徳と、成徳と、修、成徳と、萬、

成徳と、成徳と、成徳と、成徳と、

成徳と、成徳と、成徳と、成徳と、

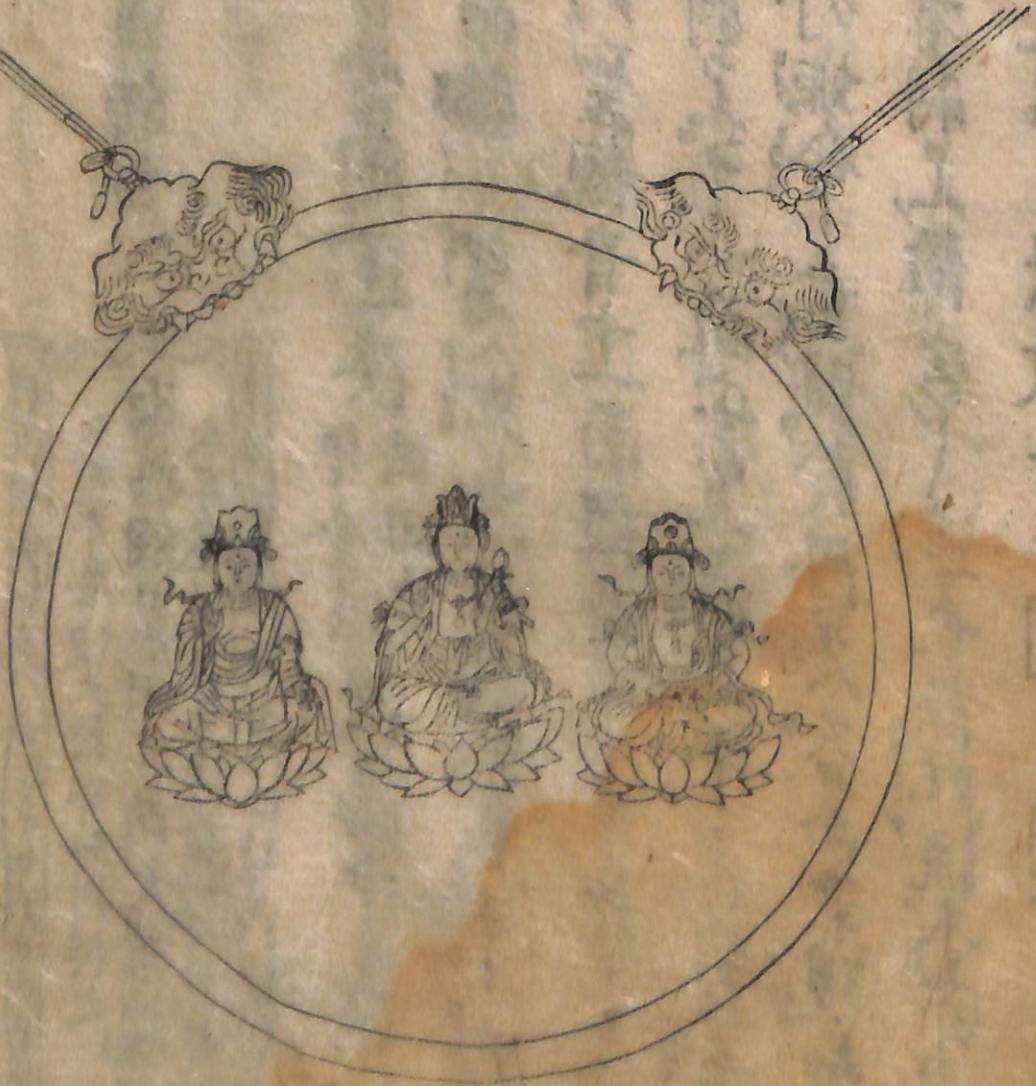
成徳と、成徳と、成徳と、成徳と、

毎日本社に堂番辰節に家流修験しとふ本社に
 務めし諸儀と個ふ右に記と二千講舎の
 一祥に載ゆふと十月十一日より十一日
 堂番乃とん帳と改むと堂番又入累修行大業令
 之役とつとあふと居住の者ふ此之役と勤む所
 姓名ふとつとと當山に官職と關くゆふ
 専勤と
 宝殿に外陣と御所あり夫處に後辰納と乃
 右照かりり往昔ふ此所修辰献とつと子孫令
 の下よ海門とと此里と修子村とつと

本社 眉 門

本地御正躰圖

附畧縁起



余尺八横 聖

御正躰之内額銘

大將軍義教大檀那細川持之
南無羽黒山三所大権現
永享二年八月一日本願聖阿叶律師

傳記曰上古當國送湊

即今酒田也

從海中桑拈槽流

夜々放光而赫々寫宛如白日則奏于朝于時詔佛

巧匠令彫刻聖觀音十一面觀音千手觀音三軀矣聖

觀音安置羽黒十一面安置飛鳥千手安置高寺也

又曰伯禽別姬命岳跡於阿久谷而示現觀世音菩薩

則阿久谷者羽黒離宮之迹也故比流木寄來而謂羽黒

巫女寄木也此故とと門々同玉之寺也

小迫代はむととと相王此末寺は於本一世民不知り

又往古飽海初と過半湖中かりきりやあ山を

すを野り合の流しりよああり是者三片のふりり

と古き乃流りりやあ

御舎の鑿ら七重れ榻や幾千架の用く

ゆととと殿りり文法を流りりその所以の秘密

初り不載り毎月初り十六日十九日二十日

り流り一重用帳あゆりり

羽黒山よと山権現成一口室殿は崇光寺り

甚深乃秘事かりり山を日月早ありととと

乃之言りり應じ所此をかりり故り

立乃娘の山より五坊成立り五行小表り山下

縁り八千ノ日又十七日十八日十九日

七代寺代建准七等所謂湊水寺中禪寺千勝寺
機乘寺滿能寺加我寺禪定寺等也此の外は福
王寺荒澤寺合九寺准之禮也

陸現此仕者として足の島あり護法神として
より異朝の寺に如あり瀧全律隨註曰今
江州西折地名盤塘近奥國軍港に有神鴨迎船人與
飯肉唐の耳固然と云ふれば鴨を神祇に依りあり
飛禽なりと云ふ又大小の天狗との取交りとしてその中
より三光坊遠行坊と取上りして神木は幹二抱余れ
银杏樹あり若藪幹代流と云ふ若藪百家の果
實は成戴と云ふらん其時代の事は凡境向に後川

一ツ荒澤は多しと云ふともて樹移幾千株とも云ふと古樹
並ありて若藪家く小をいびり湯登此支景と云ふ
として四時代なりぬ本坊下園なり

本社の總額と云ふ縁下丑年東叡山輪王寺字一區公
辨法親王其方輪代流下り若藪は羽衣三所大権現の七
字金門と照しとありたり玉殿に細の字堂あり
七月七日の飾と開帳し是れ俗に俗に合ふに伴
古歴代の佛具兵器等擧げて看せし有略なり

六所権現社

本社にありは若藪成継と云ふ鎮座にせり諸神集會
此其場なりや縁起の事は古來に其職官直

〜〜寺々武記曰伊豆宮根諏訪伊夜比子月山
鳥海に上二所也

手納初歌

山石氏
吉作

いよふまにがまはばはばけくくうまおおろり〜林林了

全

鬼川氏
尚樹

多〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜山の〜〜〜鳥じれ行

岫北雲里〜〜〜おしり〜川扇

柴葉の浅あがり〜結彦乃那節士

か〜〜名や蔓乃系〜げれ〜蘇民 連江新田里谷

赤〜〜とあれ 一〜〜〜女し

御手洗

本社此階下は清浄な〜鎮は清浄なりふ此法中より
古鏡杉あり竹り古傳曰人王甲十二代文武帝大寶元
辛丑年七月詔命鑄銀鏡一萬八千面而奉納阿久谷
〜〜〜年鏡論此事竹り〜〜此此法に清浄と
あし〜〜水面朱〜〜して年成銀〜も不澄論事
畢て池底と論上竹り〜〜右此鏡鞆〜〜とあり

鐘樓

人五九十年代後宇多院建治二丙子年八月廿七日鑄成
之鐘高八尺楕指液〜五尺五寸厚七寸銀文三十約
徑あり歴世〜〜磨滅して過半〜〜わ〜

金山寂光寺丈持鐘者一一年端等二十字あり
存在あり

舊記曰文永十一年十月從筑紫駛早馬來平治
若蒙和賊船到對馬合我下又曰建治元年鎮西送蒙
古并高麗人等不入洛直來南東下此は將軍家
より高麗山へ出た形あり一時より山上より九頭竜王の光影
見ゆる酒田の漆上一死行とくそく一下蒙古船より残
海中より没し浪西平安なりこれ謝徳上ありけし後成
寄附せられり一高記上載りあり

陸奥出船此時多しと云る後此と云る梅州
羽黒

久保乃徳名上一坤にくちのり成り下
東籬

神といひて後此は金山の住
鶴女

登山古徳傳并名士

或記曰四十一代持統天皇朱鳥己巳年四月八日夜行
者羽子より月山湯殿上一未幾ありしむ下給へども
杖桑雪山の一下一上の下と雪陽の上と車下と家一
て佛木池より多きなり巖窟上一繋所下と云り上この
玉座今より行者居り下なり

四十四代元正天皇若者六十年八月八日行基菩薩在
湯殿月山相下一未幾あり一十坪の地杉木上伐下造上を
一若人は安坐一好下湯殿雪陽あり一秘言秘記下観
授上あり一古傳より云々なり同金山河初正福寺下

艱老年中開基一法寺

五十二行塔城天守弘化行三年二月十二日始大師
御述作神道深秘錄曰予諸國回見雲山雲北所
謂不老山 管根山 枕山 月走山 望山 呼
一記云五十二行平塔天守天國元年江江大師湯山
泰龍文之己丑年己丑月湯山權杖德坐一也之靈
蓋傳之神石可載一也江江一己丑年七月
同殿奉祀弘化年一也予一也之己丑年
一也泰龍乃一也予一也之己丑年
一人行宿乃一也道路之奇異成不也
又曰天國己丑年慈覺大師從下野國越前山

羽王舊記曰慈覺大師鳥羽黑院主正任矣一也
鳥海山再興也又羽皇の謀一也山王權杖七節
如一也某師建立一也南滝山禪定寺於一也
會一也執一也羽皇の飛一也此一也師乃遺
の教多也

或曰慈覺大師涉羽皇山石橋幽飛矣
富山舊記云七十四行鳥羽院永久一甲午年大信正
行尊來羽皇而一舉保安二年也年後一舉依願
德家議而州創學預院室也初學院止住起一也
公寂之上也行一也此一也方也八柳奉一也
此外也此師文實上人登山也考一也一記也

居士登山十二人

源義家

若原秀衡

源義經

辨才

上肥沼郎實平

実明寺時頼入乃

大石能直 高梨政光

大崎義隆

長崎四郎元徳 泰光

最上出羽守義光

酒井宗円大輔忠勝

ふの外 舊記に云れ古傳に大

層の卧雲の宿 喰霞に客不載る 願法嘆也

慶安二年九月十五日百韵一巡

賦何人連歌

本貫氏

何句とくはくともく先のありし落し 不白

約巻とく月とくともく心了

あり小名とく産の廻れ けつとかりて 一故

天智法印

ありありとくはくともく直紀

ほくしけとく舟や汀はぬわとく 寸長

浪れとくはくともく茂礼

のこゆとく草乃ひとく 喜山

あくと見わとく小田とく末く 岩信

通和とくはくともく東水

ゆくとくはくともく世れ句いふあおねとく門れ春の曙

地藏堂

け不じとくはくともく女人戒壇とくはくともく若狭と結ぶとくはくともく

とくはくともくはくともく戒壇成踏とくはくともく今よとくはくともく辛仍

海邊成建とく同向れとく向水海とくはくともく山とく山下とく

堂とく集りてとくはくともく三昧所とくはくともく

東照宮

寛永年中一先賢主天宿師東叔登香山して天海
大僧正の高号よりり天の宮に成所興し多し天宿
号して別密灌大河岡利聖成勅じその時天海より
一室物 孺子信正衣 一衣 雪峯半華屏風 一石 天海具書
東照宮御名号 一幅 拜領し正保二乙酉年於此所
東照宮勅行御建立社領百石奉所之座以
毎月十七日別由衆徒於神前以樂勤之毎歲卯月
中七日有祭祀後由衆徒職傘侍等出

東照宮の日記
ふみま

東水

い下やろふ村はあふりく小三行さかた成神より

日影のれは清きさあまのまよりくひ武者 東月

阿久谷

本社より後より南川へ修験入峯のそむけは
秘下より秘密湧しといふあり瀑布れ中へ阿久
罪ゆきのそむ容いと貴くされく信行俊逸と
面より生身のめ玉成拜感とる事古今不慮乃
霊地なり

鶴いけと後れとあり也 後夜のそむ 峯月

一足と行とくあり也 葛のそむ 立宇

方便れ谷より登れ蟬乃より 梅露

鐘ヶ岡

これより南に山乃大鐘海成... 此の山乃大鐘海成... 此の山乃大鐘海成...

揚波山

隆立乃鐘見たり... 隆立乃鐘見たり... 隆立乃鐘見たり...

海松ニル此乃成山... 海松此乃成山... 海松此乃成山...

木ノ鐘ツと奥トは... 木ノ鐘と奥は... 木ノ鐘と奥は...

室野

往昔び一山と太守山萬納寺と号し... 往昔び一山と太守山萬納寺と号し... 往昔び一山と太守山萬納寺と号し...

昇天... 昇天... 昇天... 昇天... 昇天... 昇天... 昇天... 昇天... 昇天... 昇天...

食摘ニ此ニある... 食摘此ある... 食摘此ある...

立ニあニくニ矢ニ根ニ拾ニ人ニ射ニ千ニのニ花ニ支ニ考ニ

痛ニしニてニ鬼ニ成ニ中ニ有ニ此ニ照ニ射ニ子ニ呂ニ凡ニ

矢ニ落ニたニゆニんニ草ニ枯ニあニりニ神ニあニりニ此ニ紅ニ

鬱ニけニ此ニ狼ニとニあニりニ雪ニにニふニりニ呂ニ加ニ

赤子村

本社北沖津乃下ノ一帯紀ノ一取ノ一宗岐帝の皇子
初号蜂子王子其後我馬子弒宗岐帝推下帝即位
馬子諱蜂子放北邊濱矣すおのらけい雨よおりたふ
よすり蜂子村と古来ノ傳へり蜂子村の二取とてふ
跡乃しぬ由とらしそ是れ

右從河久谷の鉢子本社に丑寅方漢谷也

蜂守れ子孫を粟此あり所下なる東水

長畠頂うけく 志 ^鑛 なる 一 柳 呂加

それくのもの血脈を 熊 翁 徳 李山

あしや ^羽 なる ^黒 なる たんと 苗 里石

兼仕屋敷

しこの地為堂屋敷しと傳へあり今も福徳宿屋敷
よしとてり兼仕しとて一世代行れ戒法を ^兼 持らる
清淨潔白のこゝろ兼仕者一本社因幡北ありと兼
仕職屋敷ありぬつづき清く浄く ^兼 仕るは且暮れ給
仕清徳を代獻とての役なり

御伝所

三箇大黒堂の後願あり以敷山より中と傳へ大師
福寿増長れ守護神としてけり代業 ^兼 仕る事あり
故より ^兼 仕るも ^兼 仕る例傳成 ^兼 仕る ^兼 仕る ^兼 仕る
本傳この堂に ^兼 仕るして本社北常灯の ^兼 仕る ^兼 仕る

堂庭

清涼院の南岸より南のりて三所権杖湯の北の清涼
鼎新堂より千の餘りて方百間をうるこの内大日堂弥勒院堂
薬師愛深虚堂共藏堂これ諸堂並にひさしにあり
堂庭ありて佛入堂廡乃來由一二ありてこれ略す

上卷表

- 愛深院 健之院 宝積院 明了院 威徳院
- 三学院 南滝院 福泉院 積善院 東光院
- 貝善院 福圓院

右に記す流徒寺よりして此よりしてより外由思へ

智憲院

是より三先達北一ツありて奉入修行と習わたり寺内
乃大空事平実忍繁者より後園に虚堂花山とて
小丘あり月山北は嶽とちりり見然して南は四時
の要に目あり清くくわたり

院すしむるるまにけし月ま山 路通

関俳弁

智憲院此傍よりあり即月八日よりこの水成館の
て且る乃其花は供をりしよりしりて関俳弁坊
といふる衆位寺ありり

正徳院

智憲院よりわたりて三先達乃職寺なり梵舎号宿

と務くし荒しと當任假大達ま此志が成る
しらうに糸一書棟金壇のしむにむりよ再受の
寺内此來由是とし又者思合と

寂光寺山

正徳院此後此よりありと此山の相是ふと此林を
小して後現境因に樞要と傳へしりけもくじ
く泉識坊曼陀羅堂澤内坊やしとる寺北
ろあふり一移王子とらるる此れ約しとい傳へ
芝生あり

山聳法身無覺頂 一回遊此絶餘幸 禪光

松風滿耳花媚徑 只有幽禽占幾春

破尺道

ふれ而ら行るしりなれ谷乃成下のく山中の亡者
と送葬せ所墓下からく尺魔をの壞しるれり
して破尺乃し名ばち作らるや歴世のわら墳墓
年々此春の草乃心わく荒まむと松乃月朝し
うに世乃外り中まむく紅涙小籠成深行ふと

注梅子 神北ゆく赤や 林尾花 紫片
塚ありし後乃剛成 木町又 薰堂
宮成切しとの侍や ま乃外 東水

古墳多是 少年人

塚北松ありと世れ中 宮乃中 惠暁

中臺

殿尺乃此下乃洞流りまま入修行此拜下りり殿
伏信厚の者め王此是須臾神ともみし河くさり此
下領主も孝除此乃漢中りりいへ堂宇あつて
本より乃長一尺余此鐵佛のそ像甚貴大師の御化
靈驗ありしふしして此堂此是馬よふ
往來と侍事ありさすそのりし此作持化金乃あり
を來此壇越えあり既しゆんとす阿小僧一人
知念これおれし物して索懸と食意と具わりし
徑持しと坐ありしと此あり侍しと位高あり
し思ひ候内諸屋成回つても不知能共ふ勤事此
より索懸乃持ありしと尺のりも扱らめ王小僧と親し
かく物し給ありし物しれ世より索懸不動し唱ふ今南谷
修行寺此本よりしりり給あり侍奇特ありし事
氏家乃素懸此終りしとありしとわたり是是駿よあり
為滝付いざりしとありしとありしとありし
看れむたぶと刺さり此けいりし
八乙女遠拜下
由良此八乙女乃浦とけいりし拜と修験入奉の政例
なりし

聖病地藏

聖病地藏ありしとありしとありしとありしと病患

悉除れ世を脱して免れぬ事なりけりけりけりけり
とづけ侍るも一見しり荒はれ先へ野へとむる女人
道あり

大渡

修験男子入乃乃筋ゆく生死二海の隔りけりけりけり
岩より彼界より此の大渡れ名はけりけりけりけり
女人禁制れ石牌あり西よりちりいのかげりけり
南谷へゆく小徑乃筋あり

笈掛松

笈掛け石といふともありこの下へ入則修行の言一才乃
松のゆゑ笈をたけりけり一先途同行誦呪密山勅れ仁候

入峯小柴圖



柴燈護摩圖



赤念子の者好者より名はく素人しんまのま
 吹越へり子願より荒は花よりけの世を
 念奉のる花の入門より小燈より好は解るは修
 験乃秘傳より除魔金剛乃二童子兄より行
 者好護持よりま義より下能國阿取防乃社小柴
 とか何例一のなるもやん

此子討を一むりり為れ念奉月
 罪然の者揮るや 為る露千露
 紫河へ物よは奥乃著の掃る 呂加
 吹越

奉中修行は堂宇あり本を能除太子役行者不切

玉りり是則天下安鎮國家豊饒の修奉殿し謂たり
およ修験籠堂あり鶴ヶ岡常陸主酒井忠実道立
せられり往古その法坊弘後大生進修行の位は位
しり以降四十二宿或十八宿舊記しり進界五
宿如今ハ四宿毎年四季に於て輪番不息執行し
正月五日より座主會初る從因至果順此を以て是と
しり執行月山へ奉養し禁足の行法ありし修験者
徳列湯殿も宿の乃者成り導とは是と云々しり又
七月十八日より徳國一泊に修験行人入室儀式乃及
織同日於藤山伏附孫乃作法同九日より一の宿
しり終り九月夕六に二の宿に籠堂しり八月卯の朝

柴灯護摩修約ありし二の宿へ驅入積苦累徳此秘
下りり委不訖し是と從果向因道の休奉しり
同より玉りり別ありし是を連出を以て勅修しり
ゆりり天正年中よりして此然しり名山へ驅出あり
乃及大史系しりしり生史の法しりしり
ありしりみ起れりしり終り脱しり故例を以て終り
劔先脛布茶掛等ハ皆修験修行中の具也藤山修
験も大業入室堂番此之位と遂位と先途此軌則
しりしり先権大信初り昇る是と冬終りしりしり
四部の奉り規しり徳國散在此山伏本山流あり山
流羽流各各自より入室せり終り終り終り

延年散命了了之本山、金剛地也、錦花羽

本山、紫紋向有子

其者金書相也、以丈虛二圓、除魔金剛者陰陽兩儀也

迺是為二童子、丈虛兩儀我身之即歸一也、歸一無

差別、貴之本源自性、煩惱即菩提、生死亦涅槃也、是

所謂心佛及眾生是三無差別、尚可想識無差別

則不若生死不若則自他平等、自他平等則有相識

身迺為除魔倚神為金剛堅固之、及即修驗宗旨、

一本尊宗門之一關也、謂備神前酒於清酌、又曰美酒

及酒、限修驗、遠山、辭也

又母理宿之云、与本あり、先述の職、寺、何物改、不

一家成亦建、内より、本中、は、之、之、内、れ、約、法、

可、之、故、了、母、理、乃、号、之、は、從、果、向、因、の、修、驗、界、の、入

字、從、因、至、果、の、金、剛、界、れ、入、奉、介、し、入、字、七、十、日、の、修

行、金、胎、令、之、一、百、五、十、日、下、り、胎、肉、了、宿、之、を、了、す、

之、門、之、五、輪、形、成、得、る、也、之、り、胎、肉、の、五、位、成、修、一、胎、外

乃、五、位、成、行、之、り、是、修、本、迹、二、門、之、妙、理、也、奉、修

驗、宗、嗣、法、血、脈、よ、り、入、奉、隨、歷、の、位、成、修、行、式、了

之、名、此、宗、也、一、は、成、然、自、之、會、覺

行、蘭、村、之、放、集、之、人、理、れ、之、り、独、步

密、嚴、世、界、程、多、少、役、氏、令、鬼、慙、脚、筋、實、傳

孔雀明王咒傳去、若干行者又來雲

菴堂より東西に谷より形管流るる間伽此弁など
三石秘下あり修験行中より此れありて結ひたり

孝入修行し作りたる人の
とくくくくくくくくくく

東水

ふらふらと流るるはれまほまほのまつくとらうくまぬとふれ弁の水

母理屋鋪

菴堂より南の方よりあり母理宿修行の地なりす
行くにれれまほ小石牌表河と並ひ立ちしり是ハそれ
うそ入奉修行の先達定置作り紫灯護廣の石れ也
是れ板板中より雨漑れ風磨して牌文やし出
流れり迦せと板れとくくくく中修行れ切れ
本社より納光なり



